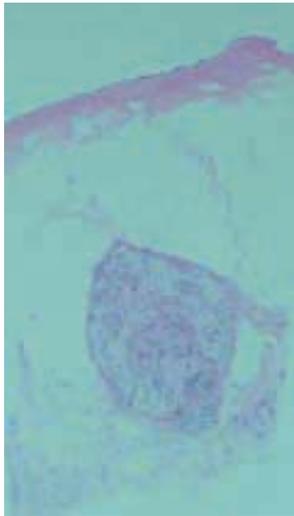


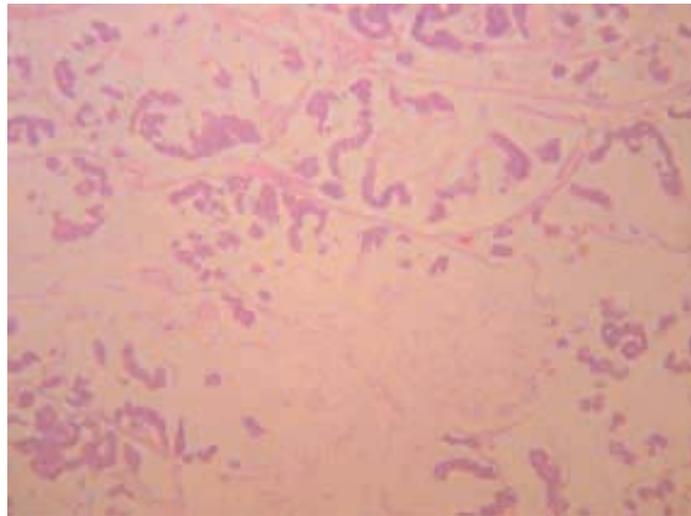
C. 浸潤がん 特殊型

1. 粘液がん

画像のポイント



画像1 マクロ
内部に粘液の貯留する境界明瞭な腫瘍像。



画像2 組織像
豊富な粘液のなかにがん巣が浮かんでいるような粘液がん独特の組織像。上皮部分は乳頭腺管がんの型をとる。

浸潤がん：特殊型

日本乳癌学会の乳癌取り扱い規約¹⁾では、頻度も比較的低く^{2),3)}、特異な組織形態を示す乳がんを特殊型として分類し、粘液がん以下11型に細分類している。さらにはがん巣の大部分がそれぞれの特異的組織形態のもので占められる場合にのみ、特殊型として取り扱うものと規定している。今回特殊型のなかでも通常の診療の場ときおり遭遇し、各々の特異な病理組織像の特徴がよく表現される、粘液がん、髄葉がん、浸潤性小葉がん、扁平上皮がん、管状がんなどの乳がんについてマンモグラフィ、超音波の所見を中心に述べる。MRIについては特徴をよく表しているものについて言及する。

表1 Comparison of relative percentage of main morphological types of invasive breast cancer in different published series

Type	Study						
	Rosen, 1979, USA	Fisher et al, 1975, USA	Wallgren et al, 1976, Sweden	Linnell and Rank, 1989, Denmark	Sakamoto et al, 1981, Japan	Page, Anderson and Sakamoto, 1987, UK	Ellis et al, 1992, UK
Ductal/NST	75%	53%	66%	41%	47%	70%	49%
Lobular	10%	5%	14%	11%	2%	10%	16%
Medullary	10%	6%	6%	9%	2%	5%	3%
Tubular	1%	1%		10%		3%	2%
Tubular mixed				20% ^d			14%
Mucinous	2%	2%		3%	2%	2%	1%
Cribriform						4%	1%
Papillary	0.5%	4% ^a	3%		22% ^b	1%	<1%
Mixed pattern		28%			20% ^c	2%	14%

^a Mixed papillary, cribriform and tubular.

^b Papillo-tubular.

^c Solid-tubular.

^d Tubuloductal.

文献2)より引用

疾患の概要

日本乳癌学会の『乳癌取扱い規約』では、「粘液産生を特徴とし、ほぼ腫瘍全体が粘液状の癌巣で占められるものをいう」と定義されている(画像2)。本疾患は境界明瞭平滑な腫瘤(画像1)として認識されることが多く良性疾患との鑑別に注意を要するが、穿刺吸引細胞診での確定は容易である。広範な乳管内進展を伴うことがあり、拡がり診断の難しい症例も少なくない。リンパ節転移は少なく、予後良好な乳がんである。粘液がんの頻度は全乳がんのうち1~7%といわれ、本邦でも坂本の集計で2.9%³⁾と報告されている。

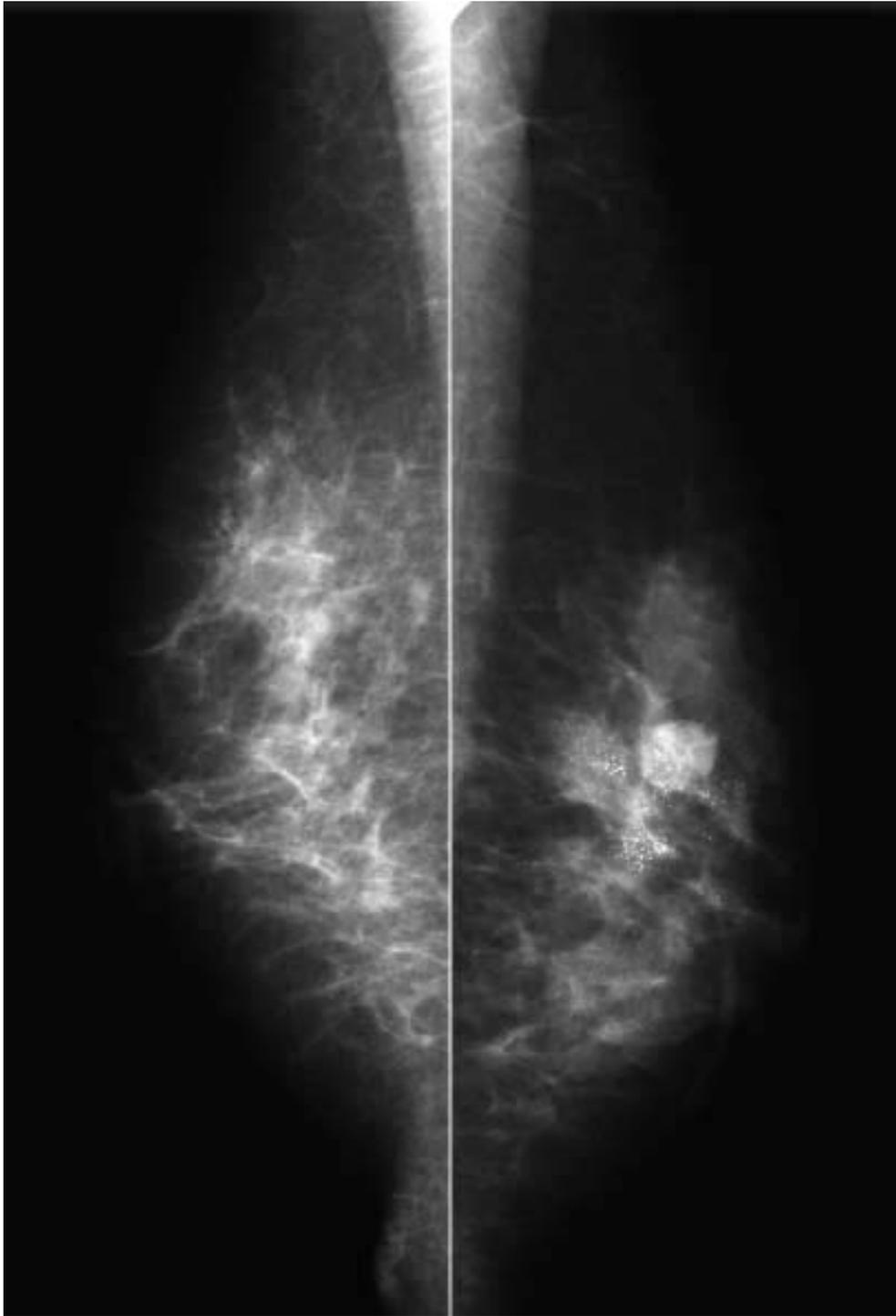
表2 乳癌の組織型別症例分布(癌研, 1981~2000年, 単発癌10,087例)

組織型	症例数	%
I 非浸潤癌	(874)	(8.7)
非浸潤性乳管癌	864	8.6
非浸潤性小葉癌	10	0.1
II a 浸潤性乳管癌	(8,270)	(82.0)
乳頭腺管癌	2,124	21.1
充実腺管癌	2,253	22.3
硬癌	3,893	38.6
II b 特殊型	(897)	(8.9)
粘液癌	289	2.9
髓様癌	45	0.4
浸潤性小葉癌	395	3.9
腺様嚢胞癌	9	0.1
扁平上皮癌	26	0.3
紡錘細胞癌	10	0.1
アポクリン癌	59	0.6
骨・軟骨化生を伴う癌	11	0.1
管状癌	29	0.3
分泌癌	9	0.1
その他	15	0.1
III Paget病	46 (46)	0.5 (0.5)
計	10,087	100.0

文献3)より引用

文献

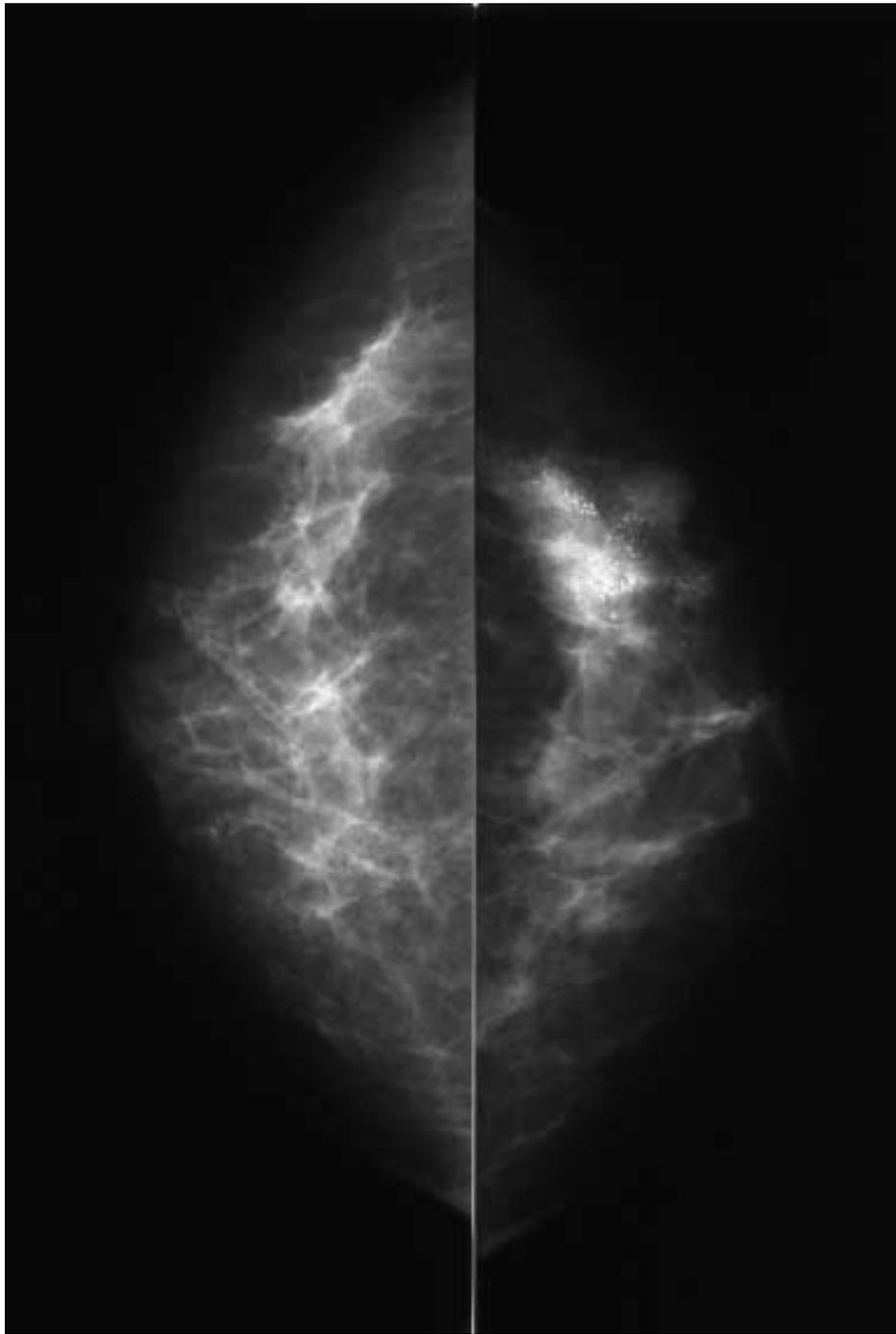
- 1) 日本乳癌学会・編．乳癌取扱い規約．第15版．金原出版；2004．
- 2) Elston C W, Ellis I O, et al. The Breast. Systemic Pathology volume13. Third Edition. Edinburgh: Churchill & Livingstone; 2000. p.283-364.
- 3) 坂本吾偉．乳腺腫瘍病理アトラス．改訂第2版．篠原出版；1995．p.51-79．



MLO

画像3 マンモグラフィ

左C領域に円形，境界明瞭，等～やや高濃度の腫瘤像を認める．腫瘤周囲には局所的非対称性陰影があり，腫瘤および局所的非対称性陰影の内部に多形性～分枝状の区域性に分布する微細石灰化を認める．



CC